

経営比較分析表（令和5年度決算）

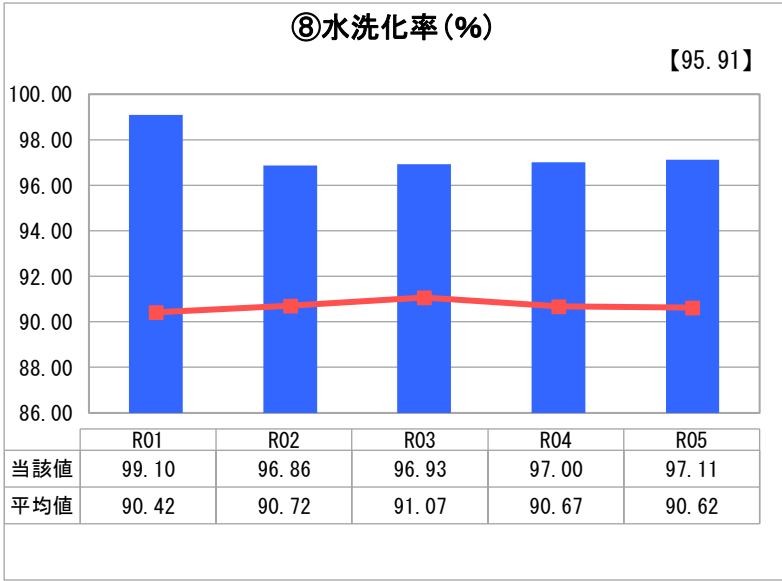
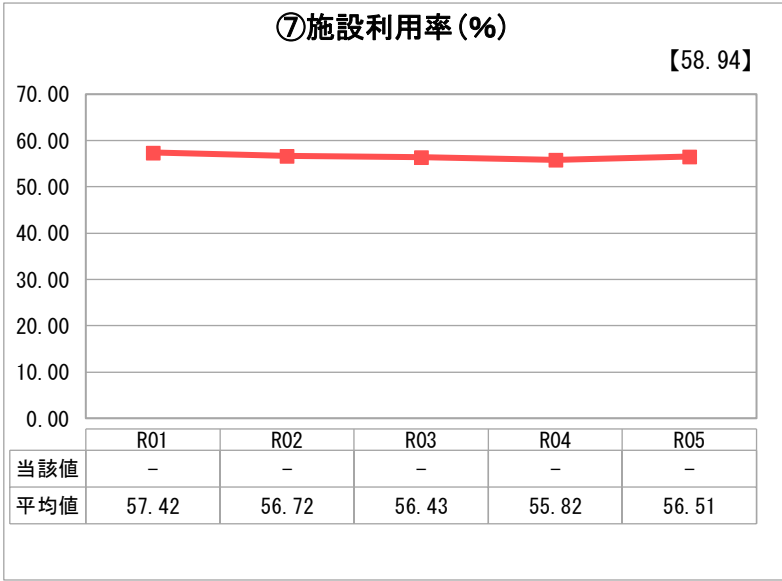
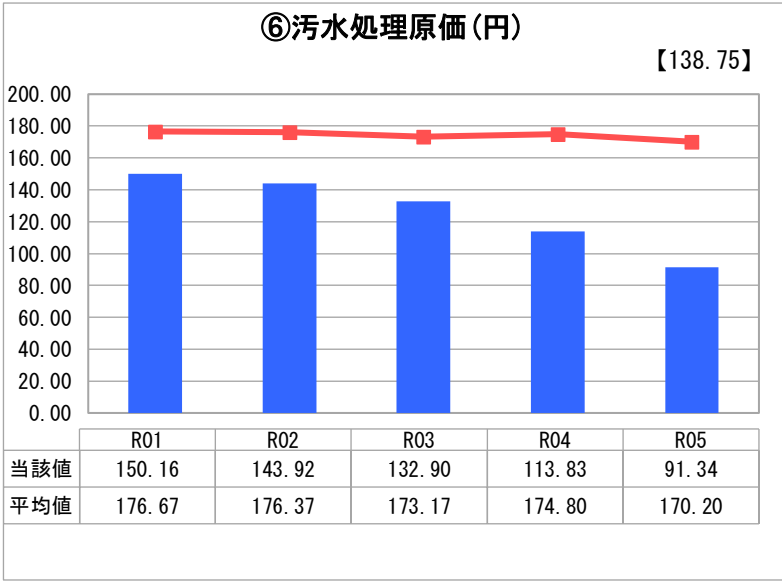
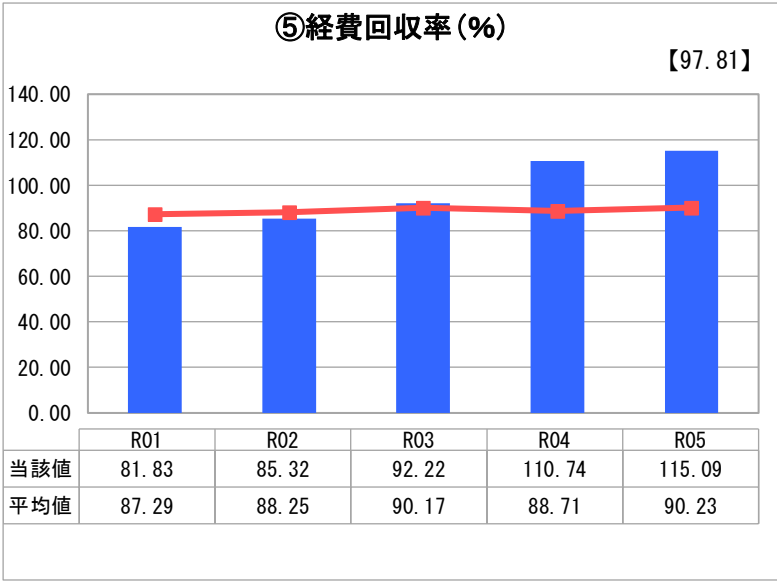
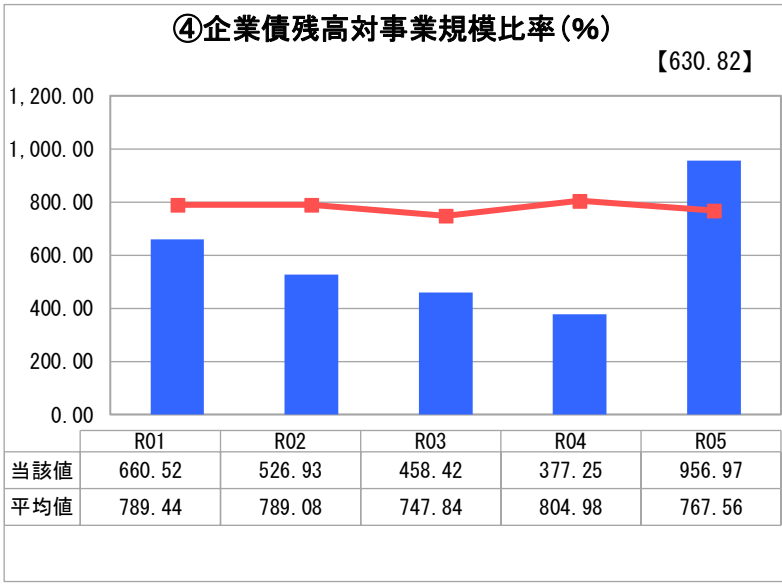
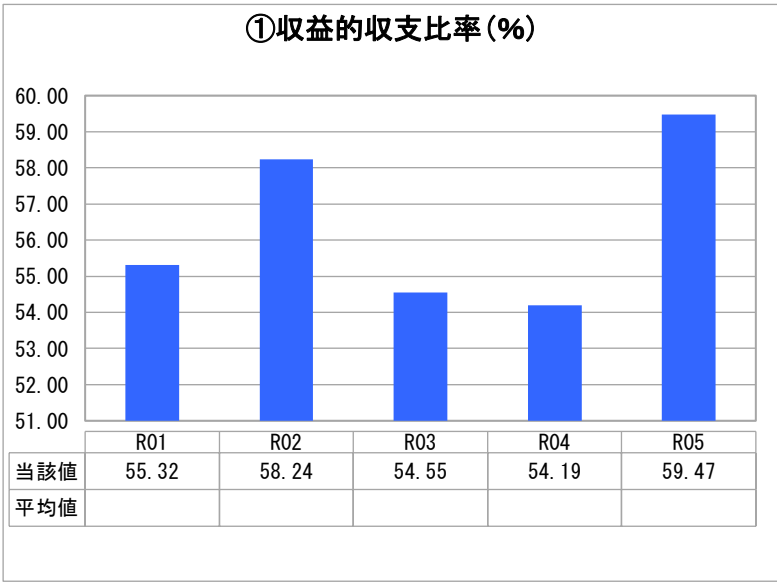
神奈川県 松田町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	86.29	86.46	1,723

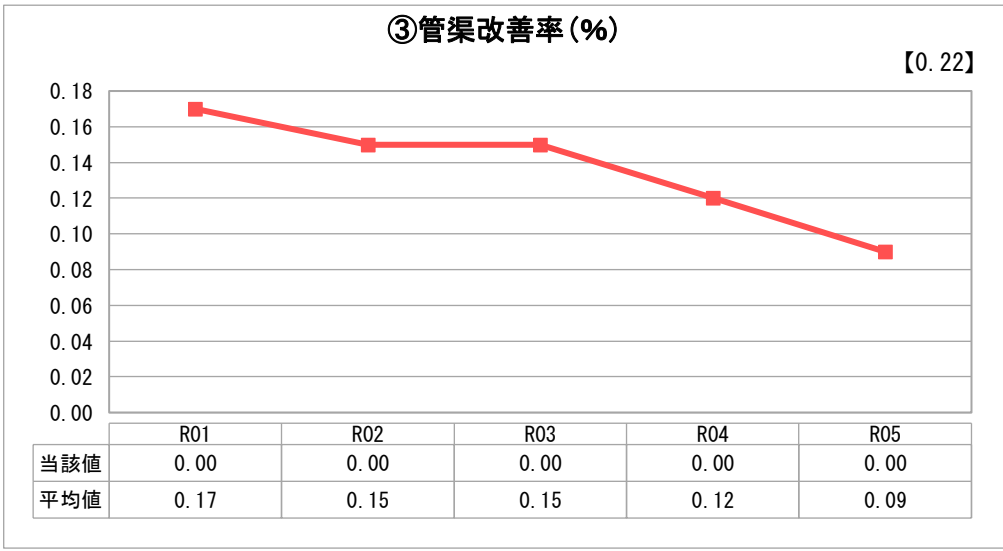
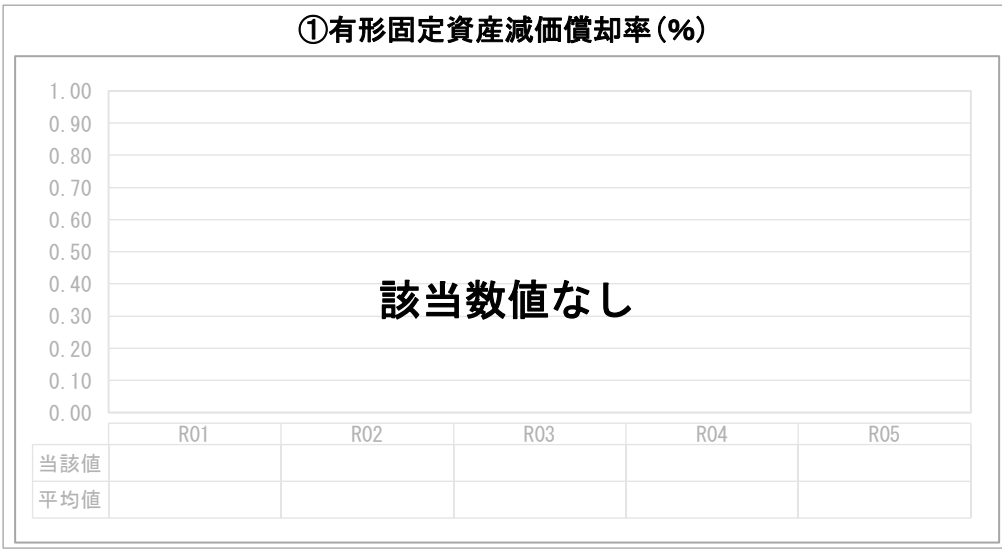
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
10,487	37.75	277.80
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
8,989	1.98	4,539.90

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



1. 経営の健全性・効率性について

企業債残高対事業規模比率が令和5年度に大きく上昇したのは公営企業会計適用に伴う打ち切り決算の影響であり、実態としては平均より低く保たれている状況に変わりはなく、汚水処理原価も平均より低いいため、現状は必要な維持管理と適正な投資規模であるといえます。

また、平成29年度より料金改定を行い、経費回収率も増加傾向にあります。

しかしながら年々、有収水量は減少傾向にあり、その傾向は今後も続くことが予想されます。

それに伴い、水洗化率の向上や新規接続の推進、適正な料金改定を行い、安定的な経営を行う必要があります。

2. 老朽化の状況について

下水道の供用開始から30年以上が経過しており、管渠の更新時期が迫っています。

管の老朽化度合いや、更新の優先度について、カメラ調査等を実施し、その結果に基づき、計画的に更新を図ります。

全体総括

平成24年度に20%、平成29年度に18%の使用料の値上げを行い、経常的な収益は増加しましたが、平成初期に行った工事の企業債償還が一部残っており、それを補てんする財源の確保に苦慮しています。

また、管渠の更新時期を迎え、さらに資本費は増加することが予想されます。

加えて、流域下水道事業に関する費用も年々増加しており、安定的な経営を行うことが難しい状況です。

今後も流域下水道に関する費用は増加が見込まれるため、さらなる料金改定も視野に入れた経営の見直しを行う必要があります。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。